最高は止まらない！

第48回全国高等学校空手道選手権大会

令和３年８月13・14・15日　　丸山総合公園総合体育館

９年ぶり２度目日本一

宮崎県連時報

（第148号）
編集兼発行
宮崎市佐土原町
下那珂1382-7
宮崎県空手道連盟
広報企画委員会
TEL/FAX 0985-73-7751

　コロナの猛威が高まっている中で始まったインターハイ。気が付けば決勝。会場、ライブ映像の視聴者も合わせれば相当な数の人が見る最後の試合。頭の中で大歓声が聞こえる。夢にまで見た景色が目の前に広がっていた。日本一が目の前にある。しかし、ここで父の言葉を思い出した。「冷静さを忘れるな、頭を使え」。私は、深呼吸をして生徒を集め試合前最後の円陣を組んだ。「ここまで来たからに優勝するぞ。お前たちは高中を倒す！俺は崎山先生にVRで勝つ！一緒に戦って一緒に日本一になるぞ」と言葉をかけた。今思えば自分が言った言葉に一番勇気をもらったのは自分かもしれない。そして迎えた決勝戦。先鋒の久保が驚異の追い上げを見せ勝利、次鋒のキャプテンもそれに続いた。常に一緒に戦っている気持ちを忘れずにＶＲを果敢に上げたのを覚えている。日本一まであと１勝。しかし、中堅、副将と落とし、一気に高松中央高校に流れを持っていかれた。ここで負けるわけにはいかない。大将・副キャプテンの富永に必死に声をかけた。「絶対に下がるな！自信をもて！」みんなが息をのんで見守る中、富永の蹴りがメンホーに当たった。しかし流れを持っていかれてのせいか、相手の上段突きに旗があがった。ここしかない。そう頭によぎりVRを上げた。このVRが宮崎第一に流れを取り戻した。そのまま守り切り。ブザーが鳴った。生徒と一緒につかんだ日本一。最高の気分だった。若さゆえにたくさんの苦労をしてきた。何度も俺で監督が務まるのか。自問自答を繰り返してきた。そんな苦労が一気に消し飛んだ。こんな気持ちにさせてくれた生徒に心から感謝している。それだけでなく、空手道部を今までに支えてくれたたくさんの方々への感謝の気持ちでいっぱいである。

宮崎第一高校空手道部監督
花車泰平

空手日記　至空塾　河野誠也

至空塾で空手をしています、大学3年生の河野誠也です。現在は宮崎大学　農学部　森林緑地環境科学科に通っています。環境問題に関心があり、森林の水循環について研究しています。大学ではそのほかに宮崎県ユニセフ協会でボランティア活動を行ったり、宮崎県庁が行っているオープンイノベーションプロジェクトに参加し、東京の武蔵野美術大学の方と共にソーシャルビジネスプランを考えています。そんな僕と空手との出会いは3歳の頃でした。父が空手の先生ということもあり、ものごころつく前から空手が身近にあったと思います。正直な話、空手をやりたいと思ったことはあまりなく、父や兄について行き、なんとなく練習しているという感覚でした。だから4歳の頃「空手やめまーす」と言い、一度やめたこともあったそうです。5歳になり、もう一度始めたきっかけは年下の子たちの存在です。自分よりも年下の子たちが練習に打ち込んで自分よりも強くなってしまうかもという漠然とした焦りが"このままではダメだ"という感情にさせたのだと思います。空手をしてみると思っていた以上に楽しく、自分は強いのかもと思っていました。小学生になり、いろいろな大会に出場すると優勝はできなかったものの上位に入ることの方が多く、自分への自信が芽生えていました。しかし、小学5年生ごろから中学生にかけてその自信はなくなってしまいました。原因はフィジカルの壁です。僕は当時、身長が低く、体の線も細かったため、周りに自分よりも身長が高い相手、体が大きい相手が増えてきました。前は勝てた相手に勝てない、どうしてと自分の中でモヤモヤがあるのに解決策も出ず、自分に対しての自信も無くなってしまい、空手をやることはつまらないことと思ってしまいました。結果、中学3年生で空手を引退しました。高校ではずっと憧れていたチームスポーツをしようと思い、ハンドボール部に入部しました。ハンドボールは球技の格闘技とも言われ、接触するプレーがかなり多いです。空手をやっていたこともあり、僕は接触プレーに対してのビビりがはじめからなかったです。そういった小さな成功体験が自分に対しての自信を取り戻すきっかけになったと思います。自分たちの代になると、僕はキャプテンを任されました。作戦や戦術、練習内容などを何度も見直し、努力するということの意味をハンドから学びました。しかし、結果を残すことはできず、チーム競技の難しさを知りました。チームとして強くなるにはそれぞれの努力、能力が噛み合わないといけない。そしてそれには時間がかかるということを学びました。大学生になり、ハンドボールをもう一度しようか迷った時もありました。しかし、僕はもう一度空手をやってみたいと思いました。自分という人間にとって空手は切っても切り離せないものであり、それにはまだ蹴りがついていない。そう思ったのです。3年というブランクはありましたが、それでもそのブランク以上に自分の中の自信"今の自分ならできる！"という感覚がありました。そこから兄と共に練習をしたり、筋トレをして体を強くしたり、YouTubeなどを使って強い人の動きを真似してみたりと思いついたことはとにかくやってみようと思いました。思い返してみると空手を始めた大学1年の夏から今まで本当にあっという間だった気がします。しかし、あの頃の自分では想像もつかない自分になれている気がします。就職活動に向けてこれから忙しくなっていきますが、空手は定期的にやっていきたいと思います。仕事を始めても自分を育ててくれた空手とはずっと関わっていきたいなと思っています。

微笑四コマ漫画

作者：和Q

お知らせ

武道館大掃除

12月18日

9時～